

# 人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。

人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

## 子どもが子どもでいられるように

毎年11月20日は、「世界こどもの日」。これは子どもの基本的人権を国際的に保護するために定められた「子どもの権利条約」が採択された日でもあります。

近年では、少子化や核家族化などにより、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきて、社会問題として、「ヤングケアラー」も取り上げられるようになりました。

ヤングケアラーとは、大人が担うような家事や家族の世話や介護などを日常的に行っている18歳未満の子どものことをいいます。

国は今年、全国の公立小学6年生を対象にした初の実態調査の結果を発表しており、6.5%（15人に1人）が「世話をしている家族がいる」と回答していることが分かりました。さらに、その時間が、平日1日平均6時間以上もの長時間に及ぶ子どもが約1割もいたということです。

家族の世話をすることはとても大事なことで、実践的な生活スキルが身に付いたり、他者への思いやりが育つなど良い面もあります。でも、それらの活動が子どもの年齢や成長段階に見合わない負担や責任となっていて、友達と遊んだり、勉強したり、学校へ行く時間もない程だったら、どうでしょうか？

また、実態調査の中で「学校や大人にしてもらいたいこと」（複数回答）として、50.9%が「特にない」と回答している一方で、「自由に使える時間がほしい」「勉強を教えてほしい」「自分の話を聞いてほしい」「お世話の一部を誰かに代わってほしい」「お金の面で支援してほしい」との回答もあります。子ども自身が過度な負担と自覚していないことや、支援が届いていないことなど、ヤングケアラーの課題も見えてきています。元ヤングケアラーの方は、「信頼できる大人とヤングケアラーの接点をたくさんつくり、支援の糸をたくさん垂らすことが大事だと思う」と話しています。

私たち周りの大人は、まず、ヤングケアラーの存在に気づき、やさしく声掛けするなどして、少しずつ信頼関係をつくり、「話」を聞くことが大切なのではないでしょうか。そして、明日の日本を担う子ども達が、勉強したり遊んだりして、持って生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できるよう、地域で見守りながら、それぞれの立場で何ができるか考えていきたいものです。



部活に入りたいけど、  
時間がないなあ

家族のことだから人に  
相談できないなあ

学校どう？

